

社会人入学の大学生と関わる機会が増えた。中には私よりも年長者も居たりする



実家に幼児を預けて、通信制のスクーリングに通ってきている女性は、離婚したばかりだそう



いろんな理由で一度社会に出てから、再び大学に来る人が増えている

ところが彼の場合、そういう話ではなかった



長雨が続き、その夜も土砂降りだったそうである



過去・現在



ICU(集中治療室)で毎晩亡くなってゆく救急患者を見ながら、命って何だと思つて大学に入り直したと語る看護婦さんもいた



そんな中の一入、私より少し年輩の人の話を聞いた



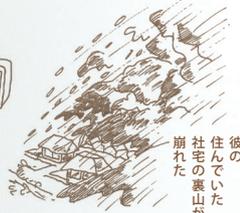
定年退職まで勤めて後、好きな歴史の勉強をするために入学したという



きちんと会社で勤めあげ、家族のために果たすべき責任を全うした後、好きな学問に取り組む

中年男性の生き方の一つのモデルだと思つた

彼の住んでいた社宅の裏山が崩れた



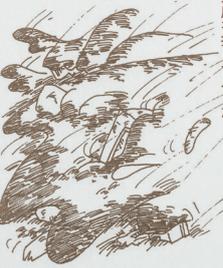
四人の家族は夕飯を終えたところだった



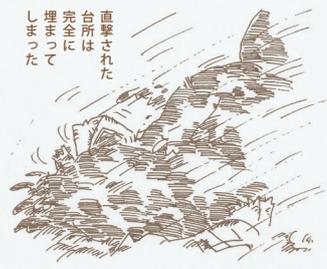
彼は茶の間に移ってナイター中継を見ていた。妹はテレビの前で父に話しかけていた



その時、崩れ落ちた土砂が家屋を押しつぶした



しかし完全に土砂に飲み込まれた台所はどうにもならなかった



直撃された台所は完全に埋まってしまった



つぶされた家の中から這い出した父親は、必死で側を助け出した妹を助け出した

結局、妻と長女は助からなかった



あつという間に十五年の家族の暮らしが奪われてしまった



社宅だったので、その後の住まいや仕事の心配はなかった

自分のためにもう一度勉強がしてみたい、そう思つたので大学に通つてみた



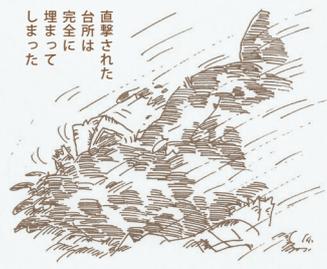
それからの十二年間、彼は残された父親としての責任感で生きた



その娘が結婚し、初孫が生まれ自分定年退職を考ふる歳になった



しかし完全に土砂に飲み込まれた台所はどうにもならなかった



直撃された台所は完全に埋まってしまった



つぶされた家の中から這い出した父親は、必死で側を助け出した妹を助け出した

結局、妻と長女は助からなかった



あつという間に十五年の家族の暮らしが奪われてしまった



社宅だったので、その後の住まいや仕事の心配はなかった

自分のためにもう一度勉強がしてみたい、そう思つたので大学に通つてみた



それからの十二年間、彼は残された父親としての責任感で生きた



その娘が結婚し、初孫が生まれ自分定年退職を考ふる歳になった



それを読みながら、ほんとうに人は様々な歴史を抱えて生きていくものだと思つた



しかし今、彼が生きて語っていることから私か受けとめるのはいくばくかの他者への期待や希望である



それが少しも伝われば、不安と孤独に一人を苦しめないで済む人が、どこかにあるかもしれない、そう思つてこれを描いた。

